

## 聖霊降臨のアイコン

(米国のエドモンド市にある"ウクライナ・カトリック教会")

聖霊降臨祭を描いたこのアイコンは、上部にスラブ語で「聖霊降臨」というタイトルが書かれています。使徒言行録2章1~4節に書かれている出来事です。ユダヤ教の五旬祭を祝うために集まった一行に、「そのとき、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた」とあります。けれど私たちが考えるような恐怖や驚き、あるいは混乱はここには見られません。他のアイコンと同様、描かれているのは単なる歴史的な出来事ではなく、より深い霊的な現実であることを忘れてはなりません。平和と優しさは、聖霊の賜物のひとつです。このように、アイコンの全体的な穏やかさの中に、聖霊の存在が見られます。聖霊は交わりの霊であり、それは弟子たちがどのように座っているかを見ればわかります。互いに寄り添い、半円を描き、穏やかに、神様である中心に向かっています。アイコンの上部では、マンドラ（アーモンド形の装飾）から、光の線として聖霊が発せられています。マンドラは、物理的に目にしたり、言葉で説明したりすることができない天の栄光と威厳を表しています。それは、神の神秘が地上の物理的な現実に現れたものです。この部屋にいる人たちは、この「光線」を受けて自らを照らし、他の人に理解できるようなやり方で「良い知らせ」を語るできるようになります。

当時キリスト教徒を迫害していた聖パウロや、この部屋にはいなかった福音書記者のルカとマルコもここにいます。彼らの存在は、このアイコンがより深い現実を示していることを思い出させてくれます。ここに描かれているのは「教会」です。教会は救いの歴史の中でキリストを証しするものですから、パウロやすべての伝道者がいるはずなのです。

中央には、両手を広げて祈りを捧げる「テオトコス」(神の母)の MARIA が座っています。教会の体現者である MARIA は、両手と心を開いて忠実な祈りを捧げ、聖霊の賜物を受けようと待っています。MARIA の左隣には、順にペテロ、マタイ、ルカ、シモン、バルトロマイ、フィリポ、右隣にはパウロ、ヨハネ、マルコ、アンドレ、ヤコブ、トマスがいます。伝道者たちはまだ書かれていない靈感を受けた福音書を手にしています。つまり使徒たちは、イエス・キリストと共に過ごしたことにより与えられた知恵と権威を表す巻物を持っています。聖パウロは、使徒たちとは異なりイエス・キリストと一緒に過ごした時間はありませんでしたが、主の福音という最大の道具を携えて地の果てまで福音を述べ伝えることを表す福音書を手にしています。

アイコン下部に描かれている王の姿「キング・コスモス」(宇宙である王)は、罪の闇に包まれた影の中に生きる世界を表しています。王は手に布を持ち、そこには12人の教えを表す12の巻物が描かれています。世界に光をもたらすのは、聖霊によって照らされたこの教えなのです。

このアイコンのように、教会が聖霊降臨祭を祝うとき、私たちは単に過去の出来事を記念しているのではなく、現在の現実、すなわち教会における聖霊の存在を祝っているのです。聖霊は私たちの間に宿り、私たちの魂を満たし、私たちをこの世に送り出してください。キリストの体である私たちの唯一の焦点は、交わり、平和、知恵、愛を生きることによって私たちの間におられる主の臨在を常に反映するものでなければなりません。